

は し が き

大学行政管理学会大学事務組織研究会（以下「本研究会」という）は、2006年9月に青山学院大学で開催された「第10回大学行政管理学会定期総会・研究集会」において、大工原孝氏（学校法人日本大学理事・本部研究推進部長、大学行政管理学会前会長）による研究発表「大学事務組織の研究―序説―その必要性―」をきっかけに、大学事務組織研究に賛同した有志8名（後に7名）により、任意の研究会として仮発足しました。その後、2007年1月の大学行政管理学会常務理事会において正式な研究会として承認され、発足した研究会であり、現在も継続的かつ精力的な研究会活動を行っています。

本研究会が発足する前から、大学事務組織が抱える問題点を指摘する声はあったものの、大学事務組織研究はほとんど行われておらず、未開拓の分野であり、その実態もあまり公になっていませんでした。そこで、本研究会は、活動の一環として、この問題を正面からとらえ、大学事務組織の実態を把握することを一つの課題として、2007年6月に『全国「私立大学事務組織実態調査」』を実施し、私立大学457大学に調査回答を依頼した結果、173大学・回答率37.9%を得ました。その後も、5年後の2012年7月に『第2回全国「私立大学事務組織実態調査」』を実施し、私立大学601大学に調査回答を依頼した結果、224大学・回答率37.3%を得ました。これらの調査結果から、大学事務組織に対しての関心の高さをうかがい知ることができました。

本書では、私立大学における事務組織の現状について、これまでの本研究会による調査、メンバーが発表した論文や講演録などを手直した内容をベ

ースに構成しています。そのため、同じ主旨の内容が多少重複する場合もあります。また、発表時点の統計データを修正することにより、それぞれの章や節の趣旨が伝わらなくなることを避けるため、多くは発表時点の統計データを使用しています。加えて、繰り返し同様の主張がなされていることも一部にはありますが、これは、本研究会がそれだけのこだわりを持っている証としてご容赦いただければと思います。

本書が単に大学事務組織の構造や体系の概要説明に止まらず、大学事務組織の特殊性と課題に対する理解の手がかりになれば幸いです。

2013年10月

大学行政管理学会 大学事務組織研究会

リーダー 寺尾 謙（芝浦工業大学）

《編集委員》

編集委員会	委員長	寺尾 謙	(芝浦工業大学)
	副委員長	濱野 泰三	(日本大学)
	委員	大工原 孝	(日本大学)
	委員	斎藤 英夫	(東北学院)
	委員	河村 隆哲	(賛助会員)
	委員	森田 芳樹	(日本大学)
	委員	保坂 亜矢子	(上智大学)
	委員	宮嶋 恒二	(京都学園大学)
	委員	藤井 幹子	(京都女子大学)
	委員	大嶽 龍一	(日本大学)
	委員	亀谷 純	(宮城学院女子大学)
	委員	日高 さつき	(白百合女子大学)
	委員	湯上谷 仁	(富山国際学園)
	委員	栗林 健太	(日本大学)

※本書における記載内容は、本研究会としての見解であり、「編集委員」個々人やその所属する法人・大学の見解でないことを申し添えます。

※編集委員は、順不同敬称略で掲載しております。

目 次

はしがき

第 1 章 大学事務組織とは	7
1. 大学事務組織研究の意義	8
2. 大学事務組織を支える法的基盤	12
3. 「事務」と「大学事務組織」の歩み	15
(1) 事務とは何か	
(2) 大学事務組織とは何か	
(3) 大学事務組織の歩み	
4. 学校法人と私立大学における組織の複合性	19
5. 学校法人と私立大学における組織の二重構造	20
6. 「法人事務」と「大学事務」組織形態の実態	23
7. 情報と大学事務組織	26
(1) 大学における事務情報	
(2) 大学における事務情報システムの現状	
第 2 章 大学事務組織研究の必要性	31
1. 大学事務組織を取り巻く課題とその先行研究	32
2. 大学職員の業務から見た大学事務組織の今日的課題	36
(1) 大学職員のあるべき姿と自己研鑽	
(2) プロジェクト型業務の実践による大学事務組織の強化	
(3) 大学事務組織におけるアウトソーシングの可能性と課題	
(4) 「サービス」を超えた「ホスピタリティ」という概念	
第 3 章 大学事務組織の実情と実態	49
— 第 2 回 全国「私立大学事務組織実態調査」から見えたもの—	
1. 私立大学の経営をめぐる各種調査	50

- 2. 第1回 全国「私立大学事務組織実態調査」調査結果概要 …………… 52
- 3. 第2回 全国「私立大学事務組織実態調査」調査結果報告 …………… 54

第4章 大学事務組織の強化書 …………… 89

- 1. 大学事務組織を強化するために …………… 91
 - (1) 帰属意識の差が大学を創る
 - (2) 大学教員の帰属意識
 - (3) 大学職員と大学事務組織の役割
 - (4) 大学職員の自己研鑽
 - (5) 大学教員と大学職員の相互理解で教育力を向上させる
 - (6) リーダーの役割を考える
 - (7) 教職員と学生の満足度を考える
- 2. 大学事務組織の規模と人員構成 ……………104
 - (1) 大学において求められる事務組織と職員
 - (2) 大学事務組織の規模
 - (3) 大学事務組織を構成する職員の階層とその役割
 - (4) 大学においてイノベーションを起こす職員、起こす事務組織
 - (5) 大学事務組織を創る職員に求められる人材像
- 3. 学生サービスと大学事務組織 ……………112
 - (1) 学生の多様化に耐えうる強い事務組織
 - (2) 学生サービスの意義
 - (3) 厚生補導と学生サービス
 - (4) 学生サービスのジレンマ
 - (5) 職員から見た「学生サービス」
 - (6) 学生から見た「学生サービス」
 - (7) これまでの「学生サービス」とこれからの「学生サービス」
 - (8) 「完璧」ではなく、「最適」な「大学事務組織」を目指す
 - (9) 大学事務組織のミッション
- 4. 危機管理と大学事務組織 ……………125
 - (1) 大学の危機

- (2) 危機と危険—事件・事故の種類とその対応—
- (3) 危機管理で事件・事故を防ぐことはできるのか
—機密保持と安全維持—

- (4) 事件・事故から大学を守る規程
- (5) 性善説から性悪説へ
- (6) 危機管理機能を担う事務組織と職員人材
- (7) 明日から危機管理体制を確立するために

5. 大学は、なぜ変わらないのか ……………138

- (1) 阻害するメカニズムから考える
- (2) どうやって変えるのか
- (3) 脅威を機会としてとらえる

資 料 編 ……………**149**

資料① 第2回 全国「私立大学事務組織実態調査」調査票 ……………150

資料② 大学事務組織研究 参考書籍・文献一覧……………166

資料③ 大学行政管理学会 大学事務組織研究会 研究発表一覧 ……………168

資料④ 大学行政管理学会 大学事務組織研究会 関連成果一覧 ……………169

資料⑤ 『大学事務組織研究』創刊号（2008）目次……………171

資料⑥ 『大学事務組織研究』第2号（2010）目次……………172

資料⑦ 『大学事務組織研究』第3号（2012）目次……………173

あとがき